



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2016.4

No.384

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



『Japanese』の鳥

石光 章(所沢市)

Japanese White-eye. いきなり横文字で恐縮ですが、これメジロの英名です。

鳥には、和名、学名、英名と3通りの名前があるのはご存じの通り。私達が普段使うのは和名で、調査・研究など学術上は学名ですが、学名はラテン語がベースでやや馴染みにくい。それに比べると英名は、義務教育で英語を否応なしに教え込まれた日本人には、少しは親しみが持てます。まして、Japanese とあればなおのこと…というワケで、英名 Japanese の鳥をチェックしてみました。

◇ Japanese は 22 種

「日本鳥類目録・改訂第7版」(以下、目録7版)に記載されている鳥 633 種のうち、英名に Japanese が付く鳥は別表の通り 22 種あります。何故 Japanese なのか、命名の由来、根拠は明確に示されてはいません。そこで考えられる要素をもとに、勝手気ままに考察してみました。

まず、Japanese とあるからには、日本との繋がりが強い、縁が深いということではないだろうか…ということは留鳥? 確かに 22 種のうち 16 種が留鳥で、シギ、チドリのような旅鳥は 1 種もありません。そして、殆どの種は日本を中心とした比較的狭い地域を棲息域としています。

例えばウミウ = Japanese Cormorant。Cormorant はウを意味します。棲息域は日本周辺と朝鮮半島やカラフト周辺の海で狭い。対して私達が日頃よく見るカワウ = Great Cormorant は、日本列島からアジア大陸の広い地域、オーストラリア、南アフリカにまで棲息しています。この違いを考えれば、ウミウの Japanese は納得です。

オオセッカも納得の Japanese です。世界最大の繁殖地とされる青森県仏沼をはじめ茨城県浮島、千葉県笹川など、日本の極く限られた地域にしか棲息していません。個体数 2500 羽程度といわれる稀少な Japanese でした!

◇ 固有種との関係

日本には固有種とされる鳥が 10 種います(ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、アカヒゲ、ルリカケス、アマミヤマシギ、メグロ、アカコッコ、ヤマドリ、カヤクグリ、アオゲラ)。こ

のうち Japanese はカヤクグリとアオゲラ 2 種だけです。でも、ヤンバルクイナとノグチゲラには Okinawa、アカヒゲに Ryukyu、アマミヤマシギに Amami、メグロには Bonin(小笠原諸島の英語名)、アカコッコに Izu と、Japan 以上に限定的な地名が採用されています。これらも広い意味では Japanese ですネ。

固有種アオゲラと同じキツツキの仲間コゲラも Japanese です。コゲラは日本では簡単に観られますが、棲息域は日本周辺に限られているので、アオゲラとともに欧米の鳥見人、特にキツツキファンには憧れの鳥とされているそうです。

◇ ウグイス、コマドリも Japanese

日本の三鳴鳥のうちウグイスとコマドリが Japanese です。棲息域はウグイスが日本列島、朝鮮半島、中国南西部、フィリピン、ベトナムと広範。コマドリもウグイスよりは狭いものの、カラフトから中国南西部に及んでいます。Japanese と限定するのはいささかためられる広さですが、共に古くから日本の鳴鳥として愛され、親しまれて来た鳥。声の実力で Japanese を勝ち取ったのでしょうか! ちなみに三鳴鳥の残りの一種オオルリの英名は Blue-and-white Flycatcher です。体色をもとに命名したのですが、オオルリファンとしては「Black が抜けてませんか?」とツッコミたくなります…。

◇ 唯一の冬鳥ヒレンジャク

冬鳥の Japanese はヒレンジャクだけです。近年、日本ではヒレンジャクが多く、キレンジャクは稀少ですが、棲息域はヒレンジャクが日本周辺と狭いのに対し、キレンジャク=

	和名	英名	棲息地域	
1	ウズラ	Japanese Quail	日本、中国の北東部と南西部	留鳥
2	カラスバト	Japanese Wood Pigeon	日本の島嶼部	〃
3	アオバト	Japanese Green Pigeon	日本、中国南西部	〃
4	ウミウ	Japanese Cormorant	日本周辺、朝鮮半島と樺太周辺	〃
5	ミンゴイ	Japanese Night Heron	日本、台湾、中国、比島	夏鳥
6	カンムリウミスズメ	Japanese Murrelet	日本周辺の海	留鳥
7	ツミ	Japanese Sparrowhawk	日本、東南アジア、中国	〃
8	コゲラ	Japanese Pygmy Woodpecker	日本、樺太、中国の一部	〃
9	アオゲラ*	Japanese Green Woodpecker	日本(本州以南)	〃
10	サンコウチョウ	Japanese Paradise Flycatcher	日本、東南アジアの一部	夏鳥
11	シジュウカラ	Japanese Tit	日本、中国～欧州	留鳥
12	ウグイス	Japanese Bush Warbler	日本、朝鮮半島、中国、比島	〃
13	メボソムシクイ	Japanese Leaf Warbler	日本、東南アジア、北アジア	夏鳥
14	メジロ	Japanese White-eye	日本、中国南西部	留鳥
15	オオセッカ	Japanese Marsh Warbler	日本(限られた地域)	〃
16	ヒレンジャク	Japanese Waxwing	日本、朝鮮半島、中国の一部	冬鳥
17	クロツグミ	Japanese Thrush	日本、中国の一部	夏鳥
18	コマドリ	Japanese Robin	日本、樺太、台湾、中国南西部	〃
19	カヤクグリ*	Japanese Accentor	日本	留鳥
20	セグロセキレイ	Japanese Wagtail	日本、朝鮮半島など	〃
21	イカル	Japanese Grosbeak	日本、中国の一部	〃
22	コジュリン	Japanese Reed Bunting	日本、中国の一部	〃

*は日本固有種

Bohemian Waxwing はアジアから欧米まで広範囲です。そもそも Waxwing は、キレンジャクとヒメレンジャク(アメリカ)の次列風切の先端に赤い口ウ状の突起物があることから名付けられたとされます。欧米ではレンジャクと言えばキレンジャクまたはヒメレンジャク。ヒレンジャクは Japanese なのでした。欧米の図鑑にヒレンジャクは載っていません。

◇ Japanese ではなくなった鳥

学名は絶対不変が決まりで、コマドリとアカヒゲの学名があべこべに登録されたままなのは有名な例ですが、英名は変更が可能です。目録7版で Japanese ではなくなってしまった鳥が3種あります。

- タンチョウ…Japanese Crane
→Red-crowned Crane に。
- トキ…Japanese Crested Ibis
→Crested Ibis に。
- ノジコ…Japanese Yellow Bunting
→Yellow Bunting に。

個々の改名の理由は示されていません。

タンチョウについては、アジアの某国が国鳥に選定しようとしたが、英名に Japanese とあるのでやめた、との噂話がありました。これが改名に影響したのかどうか？ 真相は不明です。

トキは、日本の野生の個体が絶滅してしまったのでやむを得ませんが、ノジコは棲息域を考えれば Japanese のままで良いと思うのですが…。

◇ Japanese になった鳥

逆に新たに Japanese の仲間入りをしたのは4種。(括弧内は前の英名)

- サンコウチョウ…
(Black Paradise Flycatcher)
- シジュウカラ… (Great Tit)
- メボソムシクイ… (Arctic Warbler)
- イカル… (Masked Grosbeak)

サンコウチョウとイカルは、日本周辺を中心に棲息しているのでムベなるかなです。メボソムシクイはかつてかなり広範囲に分布する1種とされていたのが、現在はコムシクイ、オオムシクイ、メボソムシクイの3種に分かれ、分布も分かれました。シジュウカラも、アジアから欧州まで広域に分布する1種とされていたのが3種に分かれ、そのうちシジュウカラ(学名 *Parus minor*)は、日本、中国北中部・北東部、ロシア極東、朝鮮に分布します。研究が進んで分類と分布が変わり、そのために英名が変わる…その具体例といえます。

グローバル化が著しい昨今、Japanese の鳥も色々複雑なようです。



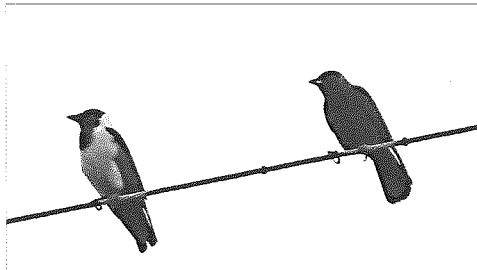
野鳥情報

戸田市彩湖 ◇11月28日、ユリカモメ、カワウ、カンムリカイツブリ、オオバン、キンクロハジロ、ホシハジロ、コガモ、アオサギ、コサギ、ホオジロ、モズ。目の前30m程先でオオタカの幼鳥を2羽のハシボソガラスが追いかけて、オオタカは半Uターンし、上空へ飛び去る。間近で見たのは初めて！（陶山和良）。

加須市加須はなさき公園 ◇11月28日、青毛堀川でイソシギ、コガモ、オオバン、カイツブリ、ホオジロ、キジ♀。公園内でヒドリガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、カルガモ、シメ、ツグミなど。ミヤマガラス200羽土中にコクマルガラス数羽。カラス柱を作った後、南に流れた。12月4日、ハシビロガモ♂第1回生殖羽換羽中1羽。ヒドリガモ♂エクリプスから生殖羽に換羽中の個体、♂生殖羽にほぼ換羽済の個体、♀非生殖羽の個体、♀非生殖羽から生殖羽に換羽中の個体など約50羽。カルガモの性比は、♂>♀のようだ。他にコガモ、カイツブリ、ハクセキレイなど（長嶋宏之）。

羽生市下岩瀬 ◇11月28日、ミヤマガラス約100羽、ずらっと電線に並ぶ。その中にコクマルガラス淡色型1羽と暗色型数羽が混じっていた。ハヤブサ1羽が20m位の低空を飛んで行った（本多己秀）。

さいたま市岩槻区新方須賀 ◇12月1日午後、県立大学北方の水田地帯でミヤマガラス約130羽の群れと、これに混じって行動するコクマルガラスを確認。コクマルガラスはまとまって送電線に並んでとまる（下写真）。



全部で8羽、淡色型は内3羽。ミヤマガラスの群れは、午後4時15分頃から順次、群れを成して北西方向のねぐらめざして飛去し始め、コクマルガラスの群れも4時24分に同方向に飛去る。4時30分過ぎには、全ていなくなった。その後、独協高校南側に一群のミヤマガラスがおり、ハシボソガラスの群れに混じり、南東方向へ。12月8日、午後4時20分に一斉に飛び立ち、一団となって北西へ飛び去る。12月9日、午後4時19分にスーパー「アピタ」南側に群れた後、一団となって北西へ飛去る。羽数はいずれも100羽十。12月21日午後、電線にミヤマガラスの集団がとまっていた。午後4時5分頃、約60羽の一団が、飛び立ち、北西へ。4時7分、58羽の一団が北西へ。4時9分、22羽の一団が北西へ。4時20分、70羽の一団が北西へ飛び去り、1羽もいなくなった。計約210羽。西日の差し込む逆光での観察のためコクマルガラスは未確認（石川敏男）。

川口市行衛 芝川第一調節池 ◇12月1日、オオハクチョウ2羽、昨日飛来とのこと。他にカンムリカイツブリ30羽、ハジロカイツブリ5羽、カワウ100羽位、集団で餌取り。チュウヒ1羽（野口 修）。

川越市伊佐沼 ◇12月2日午前、セグロカモメ1羽、ユリカモメ3羽十、県内では珍しい(ただの)カモメ1羽。いずれも成鳥。オジロトウネン2羽、ハマシギ4羽、イソシギ1羽、コチドリ4羽（榎本秀和）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇12月5日午前、ウグイス、メジロ、シメ、ジョウビタキ、カケス、アオジ、アオサギなど。12月20日、ハヤブサ、木の天辺でスズメを食べていた。カワセミ♀、コジュケイの声、シロハラの声、エナガ、ホオジロ、ミヤマガラス70羽が上空30m位を飛んだ。ジョウビタキが縄張り争い、ガビチョウが大声で鳴く（本多己秀・久文字）。

春日部市内牧 ◇12月12日午後、内牧公園探鳥会集合場所近くの田んぼに一群のミヤマガラスが採食中。刈れた稲の切株辺りを盛んにほじくっており、切株を折る音がした。群れの中心はミヤマガラスの成鳥と若鳥で、

その周辺にはハシボソガラスが散在。ハシボトガラスはいない。ハシボソとの相性がいいのか？ 夕暮れ時まで待機していると、群れ全体が頭をもたげるようになり、やがて午後4時25分、一斉に飛び立ち、西側の豊春用水沿いの斜面林(屋敷林)の上空を超えて、南西方向に去っていった。その数72羽。コクマルガラスはゼロ。岩槻区にいるグループとは別と思われる(石川敏男)。

蓮田市国立東埼玉病院 ◇12月13日、シロハラ3羽、カシラダカ、ジョウビタキ1羽、シジュウカラなど(本多己秀・久文子)。

蓮田市黒浜沼 ◇12月13日、コガモ46羽＋、カルガモ、アオサギ1羽、モズ1羽、ウグイス2羽、スズメ26羽。1月1日昼頃、コガモ、カルガモ、マガモ、アオサギ、カワウ、モズ、シジュウカラ、ウグイス、オオジュリン。ミヤマガラス約100羽、電線に並んでいた。シロハラ、スズメ、ヒヨドリ(本多己秀・久文子)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇12月13日、一本のケヤキにシメ11羽。ねぐらなのだろうか？ シロハラが植え込みの下から近くの小枝にとまった。12月17日、一本のケヤキにシメが16羽。追いかけてこしたり、無視してジッとしていたり。葉が落ちたイチヨウの梢にツグミ9羽。ハイタカ2羽が輪を描いていた。12月24日、カラスが慌てて逃げたと思ったら、桜の枝にハイタカ♀成鳥が1羽。目が合ってしまった。12月28日、モズ、シロハラ、カケス、ツグミ、シメなど。今年はジョロウグモがまだ元気だ(長嶋宏之)。

滑川町武蔵丘陵森林公園 ◇12月15日、コガモ、カルガモ、マガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、カイツブリ、カワセミ、アオサギ、カワウ、ダイサギ、ガビチョウなど(長嶋宏之)。

さいたま市桜区上大久保 ◇12月15日、作田調整池でカルガモ16羽、マガモ♂1羽♀1羽、コガモ♂1羽♀2羽、カワセミ1羽。カルガモはペア3組が別行動。残りは集まって泳ぎ、内過半数(♂?)は時々尾を小刻みに左右に振り、「ピイツ」と鋭く鳴い

て上体を引き上げる。求愛の仕草だろうか(大塚純子)。

さいたま市緑区新宿 ◇12月18日朝、車での通勤途中、翼は白色、体上面暗色の鳥が前を横切った。車を止め、探したら、アカガシラサギ冬羽だった。再び飛んで芝川のアシ原の中へ入って行った(鈴木紀雄)。

上尾市丸山公園 ◇12月19日午後、オオタカ1羽が眼前30m位上空をゆっくり飛んだ。羽が青空に透けて美しかった(本多己秀・久文子)。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇12月20日、ヨシガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ♂、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ホオジロガモ♂1羽(私の記録では13年ぶり)、カンムリカイツブリ、カイツブリ、オオバン、バン、アオサギ、ダイサギ、ツグミ、ハクセキレイ、コゲラなど。1月1日、ホオジロガモ♂1羽、トモエガモ♂1羽、ヨシガモ♂7羽などカモ類10種。その他オオバン30羽±、亜種ダイサギ5羽、アオサギ5羽、カンムリカイツブリ1羽、カワセミ1羽など(長嶋宏之)。

幸手市宇和田公園 ◇12月29日、探鳥会終了後にもう一回りしてきた。県境に近い辺りの国道4号線を越えた所でシラコバト2羽確認。去年は遠くで見ただけだったので、ようやく近くから観察出来た(大畑祐二)。

狭山市入間川 ◇12月30日午前、新富士見橋付近でユリカモメ8羽、中州から旋回しながら上昇し、下流域に飛んでいく(吉田勉)。

白岡市西 N36.0140 E139.6494 ◇12月31日、元荒川の中州でタシギ9羽、イカルチドリ5羽、バン2羽、ハクセキレイ2羽、セグロセキレイ2羽、他にコガモ、カルガモなど(長嶋宏之)。

表紙の写真

スズメ目アトリ科カワラヒワ属カワラヒワ

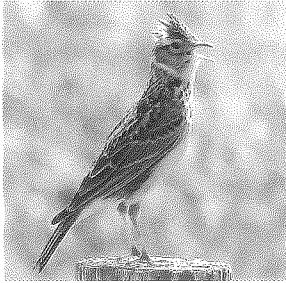
黄色づくし。タンポポ・菜の花・鳥の翼帯。

2015年4月 さいたま市見沼たんぼ

佐久間孝夫(さいたま市)



行事案内



ヒバリ(編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

(今月から参加費を改定しました。ご了承ください。)

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。実際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

3～4月は鉄道・バスの時刻表変更があります。この案内は、執筆当時の情報に基づいていますので、変更があるかもしれません。ご注意ください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：4月3日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園学習センター玄関前広場。

交通：JR高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:36 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、秋葉、浅見(徹)、大坂、岡安、近藤、柴田、立岩、飛田、内藤、永野、村上、山野、吉原(早)

見どころ：昨年は、小雨の中での花見と鳥見でした。それでも、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、ツバメ、ツグミ、シメなど留鳥・夏鳥・冬鳥がそろって楽しめました。さて今年は何？

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：4月3日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口①番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

担当：伊藤、赤堀、大井、須崎、手塚、野口(修)、藤田、若林

見どころ：久々の見沼ヘルシーロードコースの予定です。春の花々が咲きそろうなか、

春に渡ってくる鳥達を中心に見てまわります。調整のできる服装でお越しください。ご注意：状況によっては、コースを変更する場合があります。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：4月9日(土)

集合：午前9時30分、西武狭山湖線西武球場前駅前。

担当：石光、久保田、小林(ま)、鈴木(秀)、長谷部、水谷、持丸

見どころ：今回は湖周辺の緑地を中心に歩いて、名残りの冬鳥、先駆けの夏鳥を探します。散りゆく桜とともに、しんがりのカンムリカイツブリを見送りましょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4月10日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:50発に乗車。

担当：茂木、新井、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上

見どころ：葉桜に変わり、鳥たちも春のまつただ中でにぎやかに出てきます。冬鳥たちと送り出す鳥たちがあちこちにいますので、さぞや観察は忙しくなることでしょう。ヒレンジャクやツバメにも期待。

長瀨町・宝登山探鳥会

期日：4月10日(日)

集合：午前9時、秩父鉄道 長瀬駅前。
交通：秩父鉄道 熊谷 8:00→寄居 8:28→長瀬
着 8:48。または御花畑 8:12→長瀬着 8:32。
解散：12時30分ころ、山頂ロープウェイ駅
前広場。

担当：井上、鵜飼、佐久間、堀口、松下
見どころ：昨年は5種類の猛禽が見られまし
た。時期を4月に変えて2回目の探鳥会に
なります。小鳥のさえずりを聞きながら宝
登山の山頂まで登ります。

ご注意：宝登山は標高 497mほどの山です。
履きなれた靴で、飲み物も忘れないでくだ
さい。ゆっくり歩きますのでどなたでも大
歓迎です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：4月16日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：4月17日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東
口、集合後路線バスで現地へ（ご注意：案
内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定で
す）。または午前9時、さいたま市立浦和博
物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：須崎、青木、赤堀、浅見(健)、浅見(徹)、
石塚(敬)、楠見、小菅、小林(み)、柴野、
新部、畠山、増田

見どころ：見沼代用水の桜には少し遅いかも
しませんが、新緑と芝川土手の菜の花な
ど春満開の三室です。季節の移ろいの中、
冬鳥のカモは何種類残っていてくれるで
しょうか。例年、夏鳥のツバメ、コチドリに
会えるのもこの4月の探鳥会です。爽やか
な春の見沼たんぼの散策と鳥見をお楽しみ
ください。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：4月17日(日)

集合：午前9時15分、アスレチック広場前・
第一駐車場。

交通：東武春日部駅西口、朝日バス③番乗
り場から春日部エミナース行き 8:41 発で



秋ヶ瀬公園探鳥会

「共栄大学入口」下車。西へ徒歩約7分。
担当：石川、菊川、佐藤、佐野、進士、野村(修)、
野村(弘)、橋口、吉岡、吉安
見どころ：冬鳥・漂鳥を見送り、夏鳥を心待
ちにする新緑の季節です。今年はどうな鳥
と出会えるでしょうか。雑木林や屋敷林の
樹冠・林床の落ち葉、田んぼや畔の草地、
用水路土手などをゆっくり見て回ります。
帰りのバス：下車したバス停から、13:07、
14:20。(バスの発時刻は2月現在有効のも
のです)

埼玉 Young 探鳥会 さいたま市・秋ヶ瀬公園

期日：4月24日(日)

集合：午前8時15分、JR 浦和駅西口。集合
後、路線バス(②番バス乗場から大久保浄
水場行 8:33 発)で「さいたま市桜区役所」
へ移動。または午前9時、桜区役所バス停
付近。

担当：石塚(敬)、石塚(真)、小林(み)、佐野、
野口(修)、菱沼(一)、廣田

見どころ：「ナウなヤングにバカうけ(死語3
連発!)」が本家“Young探”キャッチフレ
ーズ。この冠に「埼玉」は、もはや自虐的?
(笑)。いよいよバーダーのメッカ「秋ヶ瀬」
に進出です! キビタキ、オオルリ、お目
当ての鳥達をフレッシュパワーで呼び寄
せましょう! 昼食のご用意を忘れずに。
終了後の“お茶会”差し入れも、歓迎です。

さいたま市・秋ヶ瀬公園探鳥会(平日)

期日：4月27日(水)

集合：午前9時10分、桜区役所バス停付近。

交通：京浜東北線浦和駅西口②番バス乗り場から桜区役所行き 8:32 発で終点「桜区役所」下車。

担当：小林(み)、赤堀、石塚(敬)、石塚(真)、海老原(教)、海老原(美)、金子、新部、増田

見どころ：鳥以上に人出の多い、この季節の秋ヶ瀬。少しでも人が少ない平日に、じっくりと渡り鳥を探しましょう。

シギ・チドリ類県内調査

期日：4月29日(金・祝)

野鳥の会埼玉では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の調査を行っています。多くの会員の参加・ご協力をお願いします。

◆大久保農耕地(さいたま市)

集合：午前9時30分、大久保浄水場の北西角近くの手の上、荒川総合運動公園の入り口付近。

解散：集合場所で、昼ころの予定。

交通：浦和駅西口②番バス乗り場から大久保浄水場行き 8:33 発で終点「大久保浄水場」下車、徒歩約15分。

担当：石井智(研究部)

その他：調査のため、参加費は不要です。小雨決行ですが、大雨や悪天候の場合は中止します。なお、シギ・チドリ類が大変少ないこともあります。

入間市・さいたま緑の森博物館探鳥会(要予約)

期日：5月15日(日)

集合：午前8時、西武池袋線小手指駅南口、集合後西武バス 8:16 発宮寺西行きで現地へ(リーダーが時間前に待機しています)。または午前9時、緑の森博物館管理事務所前。

解散：正午頃、管理事務所付近の予定。

定員：20名(探鳥地の環境保全に配慮し、定員制とします。埼玉会員限定、先着順。)

申込み：往復はがきに、住所、氏名、年齢、電話番号、交通手段(電車利用か自動車か)を明記して、石光章

まで。4月1日消印から受付有効とします。

担当：石光、小林(ま)、星、水谷、持丸、山本(真)

見どころ：緑豊かな狭山丘陵の森を歩いて、キビタキ、オオルリ、クロツグミ等の夏鳥を探します。新緑が茂り姿は厳しいかも知れませんが、少なくとも囀りは楽しめるでしょう。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：5月21日(土)~22日(日)

集合：21日午前9時、長野駅コンコース、新幹線改札口を出て右側。

交通：新幹線「あさま601号」(東京6:52→大宮7:18→熊谷7:31→高崎7:49→長野8:41着)、または「かがやき503号」(東京7:20→大宮7:46→長野8:46着)など

解散：22日午後4時ころ、長野駅前。「あさま662号」16:03発に乗車できるように調整します。

費用：12,000円の予定(1泊3食、現地バス代、保険料など)。万一過不足は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：25名(先着順、埼玉会員優先)。

申し込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記して、菱沼一充

まで。4月1日消印から受付有効とします。

担当：菱沼(一)、浅見(徹)、菱沼(洋)、藤掛
見どころ：キビタキ、コルリ、クロツグミ、サンショウクイなど、夏鳥たちとの出会い。明け方の鳥のコーラスや草花と、楽しみ満載の探鳥会です。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。



シギ・チドリ類調査

2016年5月～8月の行事予定

探鳥計画を立てるのにご利用ください。変更されることもありますので、確定情報は、その月の会誌『しらこぼと』の行事案内でご確認ください。

月	日	曜	探鳥地
5	1	日	栃木県 小倉山森林公園
	3	火祝	幸手市 宇和田公園
	5	木祝	千葉県 谷津干潟
	8	日	熊谷市 大麻生 [定例]
	8	日	蓮田市 黒浜沼
	8	日	栃木県 日光戦場ヶ原
	14	土	加須市 加須はなさき公園
	15	日	さいたま市 三室地区 [定例]
	15	日	入間市 さいたま緑の博物館 (要予約)
	21-22	土-日	長野県 戸隠高原 (要予約)
22	日	狭山市 入間川 [定例]	
22	日	野鳥写真撮影会 川越市 伊佐沼 (要予約)	
6	4	土	坂戸市 高麗川
	5	日	北本市 石戸宿 [定例]
	5	日	さいたま市 民家園周辺 [定例]
	12	日	熊谷市 大麻生 [定例]
	16	木	羽生市 羽生水郷公園 (平日)
	19	日	さいたま市 三室地区 [定例]
	19	日	群馬県板倉町 渡良瀬遊水地 (ヤング探鳥会)
26	日	支部総会 (午後)	
7	10	日	群馬県板倉町 渡良瀬遊水地
	10	日	熊谷市 大麻生 [定例]
	17	日	さいたま市 三室地区 [定例]
	24	日	狭山市 入間川 [定例]
	30-31	土-日	長野県 乗鞍・上高地 (要予約)
8	7	日	北本市 石戸宿 [定例]
	13	土	千葉県 谷津干潟
	14	日	熊谷市 大麻生 [定例]
	20	土	千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園
	21	日	さいたま市 三室地区 [定例]
	28	日	千葉県 谷津干潟 (ヤング探鳥会)
9	4	日	リーダー研修会

5月～8月「あの鳥は、どこで」予報

2011～2015年の5月から8月の探鳥会で見られた野鳥は、県内で80種でした。いくつかの鳥について、出現率(出現回数/実施回数)が高い県内の探鳥会を調べてみました。今年は見られるでしょうか。

- シラコバト (5月に宇和田公園で100%)
- ササゴイ (5月と7月に入間川で100%)
- チュウサギ (5月に宇和田公園で50%)
- コサギ (6月に民家園周辺で40%)
- ホトトギス (6月に大麻生で75%、高麗川で60%、石戸宿で40%、7月に大麻生で80%)
- カッコウ (6月に石戸宿で40%)
- ヒメアマツバメ (7月に入間川で80%、5月に入間川で40%)
- ムナグロ (5月に宇和田公園で50%、黒浜沼で40%)
- コチドリ (5月に宇和田公園で100%、黒浜沼と入間川で80%、6月に三室地区と羽生水郷公園で100%)
- タシギ (5月に黒浜沼で40%)
- コアジサシ (6月に羽生水郷公園で100%、民家園周辺で60%、5月に黒浜沼で40%)
- ツミ (8月に石戸宿で60%)
- サシバ (8月に石戸宿で40%)
- チョウゲンボウ (5月に宇和田公園で100%、黒浜沼と大麻生で60%)
- オナガ (5月に入間川と加須はなさき公園で100%、黒浜沼で80%、6月に三室地区で100%、高麗川で60%)
- イワツバメ (5月に入間川で100%、大麻生で40%)
- オオヨシキリ (5月に入間川、黒浜沼、宇和田公園と加須はなさき公園で100%、三室地区で80%、6月に民家園周辺、高麗川、石戸宿と大麻生で100%)
- セッカ (5月に宇和田公園と黒浜沼で100%、加須はなさき公園で75%、三室地区で60%、6月に民家園周辺で80%)
- コムクドリ (7月に三室地区で40%、8月に50%)



行事報告

10月24～25日(土～日) 長野県 戸隠高原

参加：22名 天気：晴

オシドリ マガモ カルガモ キジバト アオバト オオバン トビ ハイタカ コゲラ アオゲラ モズ カケス ハシブトガラス コガラ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ゴジュウカラ キバシリ ミソサザイ マミチャジナイ シロハラ アカハラ ムギマキ オオルリ スズメ アトリ カワラヒワ マヒワ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ (37種) 植物園入り口でバスを降りると、早速ミソサザイが出迎えてくれた。鏡池へと向かう。途中、マヒワ、アトリ、カシラダカの群れに遭遇。鏡池でオシドリを観察し、昼食。その後、隋神門まで歩く。いつもの休憩場所でアオバトを観察できた。ムギマキがいたという場所に立ち寄ったが観察できず。夜半は雨であったが、翌朝は晴れ、山々が朝日に輝き素晴らしい景色であったが、風がかなり強い。風の無い植物園に絞って探鳥することにした。前日のムギマキポイントでムギマキが見られた。おまけにオオルリの若雄が混じっていた。クマノミズキの場所ではアカハラ、マミチャジナイが交代でやって来て、ムギマキ、アオバトも観察出来て盛り上がった。(菱沼一充)

11月22日(日) 狭山市 入間川

参加：40名 天気：曇

マガモ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバン イソシギ ミサゴ トビ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (32種) (番外：ドバト) 1990年11月に定例探鳥会となり24年。改めて第1回の記録を見つめた。気になるのはカモの種類と数。当時、カルガモ19、コガモ62、オナガガモ4、ハシビロガモ2とある。ハマシギも100以上のメモが残っている。

最近ではカルガモ、コガモ、マガモは数羽といったところ。ハマシギはずいぶん前に見られなくなっている。他にも、ゴイサギやヒバリが見られなくなっている。何が理由かは分からないが、記録を残すことが将来役に立つのであれば、定例探鳥会って大切なかもしれない。(長谷部謙二)

11月23日(月、祝) 本庄市 坂東大橋

参加：14名 天気：曇

キジ マガモ カルガモ カイツブリ カンムリ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ トビ オオタカ ノスリ カワセミ チョウゲンボウ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヒバリ ヒヨドリ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ (33種) (番外：ガビチョウ) どんよりとして肌寒い天候。ベニマシコは声だけだが、シメ、ジョウビタキ、ツグミなど冬鳥もぼちぼち出現。オオタカ、チョウゲンボウが樹上に止まり、カワセミ、ハヤブサが飛ぶ。カモは少なかったが、カンムリカイツブリが代わりに出迎えてくれた。最後にノスリを見て、まずまず。(新井 巖)

11月23日(月、祝) 志木市 柳瀬川

参加：38名 天気：曇

ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ オオバン イカルチドリ イソシギ セグロカモメ オオタカ カワセミ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ イソヒヨドリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (36種) (番外：ドバト) 土手に出ると冷たい風が吹いていた。富士見橋を渡ると高圧電線にチョウゲンボウが止まっているのを発見。そこへ他のタカ類が攻撃、チョウゲンボウは田圃に降り、参加者全員がゆっくり観察。ツグミも柳瀬川では今シーズン初認であった。休憩後、対岸の屋根の上にイソヒヨドリ♀を発見。柳瀬川探鳥会では初めての観察。その後、中州にいるイカルチドリを探し、鳥合わせをして解散した。(持丸順彰)

11月28～29日(土～日) 宮城県 蕪栗沼

参加：27名 天気：28=曇、29=晴

キジ ヒシクイ マガン ハクガン シジュウカラ
ガン コハクチョウ オオハクチョウ オカヨ
シガモ ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガ
モ ハシビロガモ オナガガモ トモエガモ コ
ガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ
カイツブリ カンムリカイツブリ キジバト カ
ワウ アオサギ ダイサギ ヘラサギ オオバン
ミサゴ トビ オジロワシ チウヒ オオタカ
ノスリ コゲラ チョウゲンボウ モズ カケス
オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス ヒガ
ラ シジュウカラ ヒヨドリ エナガ ツグミ
ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ
カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ
カシラダカ アオジ (55種) 蕪栗沼に向かう途
中の田んぼで、マガンの群れの中にハクガンを発見。
幸先が良い。蕪栗沼ではオオハクチョウを間
近で、またオオヒシクイを“ごった煮”状態(高
密度かつ数多く)で見られた。夕刻には四方八方
からねぐら入りするガンの姿を鑑賞した。翌朝は
日の出前から沼に待機してガンの飛び立ちを観察。
数千羽単位で飛び立つ群れの姿、羽音、鳴き声が、
見ているものに迫ってくる。シジュウカラガンは
着実に増えているようで、千羽以上の群れで飛び
立っていった。オジロワシもやや遠かったが、枯
れ木にとまっている姿を全員が確認できた。帰途
には化女沼に寄ってカモも観察した。この探鳥会
では、夕刻のねぐら入りと早朝の飛び立ちに「す
ごい」「大迫力」の声が参加者から口々に発せられ
る。十数万羽のガンが越冬できる豊かな環境に感
謝しながら宮城を後にした。(長野誠治)

11月29日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加：52名 天気：晴

マガモ カルガモ コガモ オナガガモ キンク
ロハジロ カイツブリ キジバト アオサギ コ
サギ オオバン タシギ オオタカ カワセミ
モズ ミヤマガラス コクマルガラス ハシボソ
ガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ
ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハ
ラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ
セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジ
ロ カシラダカ アオジ オオジュリン (36種)
(番外：ドバト) アシ原で小鳥たちの動きが少

なく心配したが、上沼で常連のカモに加えて、こ
こでは珍しいキンクロハジロとオナガガモが見ら
れた。オオタカが木立の陰から飛び出して長い間
その飛翔が見られて感激し、ミヤマガラスの大群
が飛ぶさまも見られた。大勢の参加者のお陰で結
果的に36種も確認することができた。(玉井正晴)

12月5日(土) 所沢市 狭山湖

参加：27名 天気：快晴

マガモ カルガモ コガモ ホシハジロ ホオジ
ロガモ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジ
ロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ オ
オバン ミサゴ トビ ツミ コゲラ チョウゲ
ンボウ モズ カケス ハシブトガラス ヤマガ
ラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ
メジロ ツグミ ルリビタキ スズメ キセキレイ
ハクセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ
ホオジロ カシラダカ アオジ (37種) (番外：ド
バト、ガビチョウ) 集合中、上空でツミが5羽
のハシブトガラスと激しいバトル。倍近い大き
さの相手に果敢に挑むツミの姿を目に焼き付けてス
タート。玉湖神社周辺では、声はすれども…の状
況が多く、冬鳥が少ない。ウグイスの笹鳴きが多
かったのが救いだった。湖上ではカンムリカイツ
ブリ、ハジロカイツブリは例年並みに入っている
が、カモ類は種・数ともに少ない。今年もホオジ
ロガモを観察出来て一安心!

「群れをなすカラスに向かいただ一羽 ツミは
猛禽血気あふれり」 (石光 章)

12月6日(日) 加須市 加須はなさき公園

参加：28名 天気：曇

キジ ヒドリガモ カルガモ ハシビロガモ コ
ガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ
バン オオバン トビ コゲラ チョウゲンボウ
モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュ
ウカラ ヒヨドリ ウグイス ムクドリ ジョウ
ビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ
カワラヒワ (26種) (番外：ドバト) 先ず青毛堀
川でコガモの飛翔を上から観察。翼鏡の美しさに
歓声が上がる。次いで園内の池でヒドリガモの雌
雄と、換羽中の雄を観察。カルガモの雌雄の識別
にも挑戦。結果、カモの観察に重点を置いた探鳥
会となった。その他、ジョウビタキ雄やチョウゲ
ンボウ2羽を間近で観察。(長嶋宏之)



● **さいたま市緑区環境講演会開催**

当会監事の楠見邦博が委員の一人である「緑区環境講演会実行委員会」が主催し、当



会などが後援した緑区環境講演会が、2月7日(日)午後2時から4時まで、同区中尾のプラザイーストで開催され、当会代表海老原美夫が「世界につながる見沼たんぼの野鳥たち」のテーマで講演。定員を越えて集まった144名の人のために、2015年度「見沼たんぼ見どころガイド」に掲載した「見沼たんぼの野鳥たち」を参照し、海外探鳥の経験を交え、多くの写真を使って、世界と見沼の野鳥のつながりについて話しました。

● **「佐渡のトキ」セミナー開催**

一般社団法人佐渡生きもの語り研究所(佐渡市)主催、日本野鳥の会佐渡支部長推薦の「佐渡のトキ」セミナーが、2月13日(土)滑川町武蔵丘陵森林公園探鳥会終了後の午後1時から2時30分まで、同公園屋内会場で開催されました。探鳥会参加者の多くがそのまま参加して、同研究所土屋正起さんと川井健寛さんの話を、興味深く聞きました。

● **会員の普及活動**

2月13日(土)金勝山で開催された県立小川げんきプラザ(小川町)主催「陽だまりバードウォッチング」で千島康幸が指導。参加者10名。

2月14日(日)坂戸市環境学館いずみの講座「高麗川の未来を考える 第10回高麗川の野鳥」が、坂戸市浅羽ビオトープで実施され、坂口稔、増尾隆が指導。参加者21名。

2月17日(水)「彩の国シニア自然大学校」

2015年度「野鳥観察コース」第4回を、芝川第一調節池(観察)とプラザイースト(室内講義)で実施。小林みどり、石光章、藤田敏恵が指導。2月18日(木)同校2016年度に向けた「体験コース」を北本自然観察公園で小林みどりが実施。

● **会員数は**

3月1日現在1,753人。

活動と予定

● **1～2月の活動**

1月25日(月)さいたま市「見沼たんぼ交流の場」第4回検討会(大宮区役所)に出席(小林みどり)。

1月30日(土)東京大学農学部で開催された「なつみずたんぼシンポジウム」で、「埼玉県内のなつみずたんぼにおけるシギ・チドリ類の飛来状況」を発表(小林みどり)。

2月13日(土)『しらこぼと』3月号校正(海老原美夫、志村佐治、長嶋宏之)。

2月17日(水)見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワーク27年度第3回運営会議(さぎ山記念館)に出席(藤掛保司)。

2月21日(日)役員会(司会:橋口長和、平成28年度鳥獣保護管理員3名推薦、その他)。

● **4月の予定**

4月2日(土)編集部会。普及部会。

4月9日(土)5月号校正(午後4時から)。

4月16日(土)袋づめの会(午後3時から)。

4月17日(日)役員会(午後4時から)。

編集後記

河津桜で、くちばしの黄色いメジロとヒヨドリが飛び交っている。ベニマシコみの紅が、濃さを増した。アオジの顔が大分黒くなった。会員たちの活動が、更に活発になっている。春です。3月12日校了。(海)

しらこぼと 2016年4月号(第384号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉(〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL.048-832-4062 FAX.048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL.03-5436-2630 FAX.03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社